

# 令和5年度 高森町公民館 はたちの集い開催



発行所  
長野県下伊那郡高森町  
下市田 高森町公民館  
発行人 一  
芦部 公集  
本館編集部  
☎35-9416  
印刷所  
龍共印刷株式会社

高森町では、1月3日に「はたちの集い」を開催しました。令和4年4月の民法改正に伴い、成人年齢が20歳から18歳へ引き下げられました。高森町ではこれまで通り、その年度に20歳を迎える方を式典参加の対象として、昨年度から式典名称を「成人式」から「はたちの集い」に改めて開催しています。

今年度は155名の皆さんが20歳を迎えられました。式典では、多くの来賓の皆様にお越しいただき、20歳の門出を盛大にお祝いすることができました。

実行委員会の皆さんが考えたアトラクションでは、「ビンゴゲーム」、「抽選会」、「中学校時代の写真を使用したスライドショーの上映」が行われ、大いに盛り上がりました。

その後は、中学校時代のクラスに分かれてクラス会が行われ、恩師やクラスメイトとの久しぶりの再会となりました。近況報告や中学校時代の振り返りを通じて懐かしいひと時を過ごしていました。

## 和太鼓演奏と獅子舞演奏 下市田2分館

元且に下市田パーシモン会館で新年会が行われ、今年度は飲食を控え、地区の皆さんとの顔を合わせ、新年の挨拶を交わしました。そして昨年同様、芸能表現師の久高徹也さんによるパワフルな演舞が行われました。

披露して頂いた獅子舞は、遠山の霜月祭りを表現したもので、釜の中の湯をどんどん煮たぎらせ、その湯を素手ではねかける様子を太鼓で表現されていて、静寂からドーン！と次第に音が大きくなり、体に響くような太鼓の音に、集まっ



その後の和太鼓の演奏は、久高さんは「地区の人が寄り合う事はとても大切ですし、みんなもそれを求めていると思う。その場において参加できてありがたいです。」と話して下さいました。

た皆さんの手拍子加わり、一体感溢れる演奏となりました。

自治会長の松島さんは「久高さんの太鼓は、周りを楽しませる太鼓だ。」とおっしゃっていた通り、観ている人も笑顔溢れ、楽しむ様子が見られました。



このように、地域の人たちが顔を見て言葉を交わしながら交流できる機会が今後も行われることを期待し、今年も皆さんにとって良い一年となることを願います。

## 吉田神社二年参り甘酒サービス 吉田南分館



をして、一年の無事を感じ取り、一つ年を祝います。日付が変わる頃、吉田区民の氏神様である吉田神社へ二年参りに出掛けます。

12月31日は、朝から雨が降ったり止んだり。この時期に雨というのも不思議なもの、暖かく過ごし易いのは有難いですが、考えてしまうところもあります。

境内では松明がたかれており、参道脇には一張りのテントがあり、今年も公民館吉田支館の方々による甘酒の振る舞いがありました。お参りをした後、皆さんがテントに立ち寄り甘

酒をいただきます。「あつたかいね」「おいしいね」「利益があるから」「コレ飲まんと一年始まらんでなあ」等々声は様々で、お年寄りから子どもまで皆が笑顔になります。



この甘酒の振る舞いは、公民館の分館長と主事と長年続けてきていますが、役員の高齢化による体力的負担や参拝者の減少等で継続が危ぶまれているようです。「皆さんの声を聞くと、辞める訳にはいかなあ。何とか工夫して、継続していく様に考えていかなくては。」と、中塚分館長が話してくださいまし

「二年参りに行くと甘酒を飲む。」子供のころから当たり前だった事が、公民館役員の皆さんの努力で成り立っていた事に、そして役員のご家族のご協力にも感謝致します。今年一年が平穏で実り多き年になりますようお願い致します。

### 新春の一步を走り出す

下市田4区 鳥海宏陽

僕は、下市田4区の「年明け元旦マラソン&ウォーキング大会」に参加しました。恒例の地区行事、僕は毎年楽しみで参加しています。生活改善センターをスタートとして、3キロメートルのコースで行なわれる大会。今年も天気に恵まれ、小さな子どもからお年寄りまで参加しました。

萩山神社を目指し参拝をし、鳥居横で再びスタートして、3キロメートルのコースで行なわれる大会。今年も天気に恵まれ、小さな子どもからお年寄りまで参加しました。



下市田4区 鳥海宏陽

### 下市田 五区分館 おやす作り講習会・ほんやり

五区分館長 小川喜也

下市田五区では、おやす作り講習会を昨年十二月十七日に、ほんやりを新年一月七日に行いました。

おやす作りは四年ぶりという事で、参加希望者の心配をしましたが、小中学生とその保護者さん、元自治会の役員さん、更には地元の住民の方々が集まってくれました。

今回は、コロナ禍前まで長く指導していたいた久保田利明さんには、補佐に回っていたとき、自治会役員と育成会が最初に手本を見せ、子ども達はグループに分かれて、まず練習用の藁で作ります。覚え、慣れてきた頃に本番用のすぐつた藁で徐々にですが、見事なおやすを作れるようになり、そしてしめ縄、幣束を取付けて、松の小枝を刺して完成となりました。このおやすは、正月中飾られたことと思います。ほんやりは、正月明けの六日に準備をしました。朝から小学生は集められ

た門松の分別を担当し、中学生は若者組織である双葉会と共に、切ってきた竹を十数本の束にし、指導をお願いしている壬生陸男さんと鈴木政男さんの指示で、つべんに幣束をかざした心柱に竹を取付けて、松で土台を作り、おやすを繋いだ袴を取付けて、最後にダルマを下げてほんやりの本体が完成しました。

七日早朝六時に、小学六年生を中心に松明で点火をし、かなりの強風でしたが、炎は天に登っていき、朝陽が昇り、明るくなった頃集まってくれた人達は、お餅やマシユマコを焼いて、その場で食べる方もいました。おやす作りもほんやりも



おやす作りもほんやりも

た。矢澤接骨院まで一気に下り、遠回りしながら生活改善センターまでゴール。僕は兄ちゃんに負けないよう、自分の力を出しきって最後まで全力で走りましたが、近差で負けてしまいました。約3キロメートルのコース、皆それぞれのペースで走ったり歩いたりしました。全力で駆け抜けてゴールする人、子どもを励ましながら走る親子、様々でした。

地元の人と子ども達の交流によって、次に受け継ぐ機会になってくれると願っています。

### ペタンク大会カラオケ 芸能大会

下平分館

下平分館では、12月9日に下平九頭竜会館にてカラオケ芸能大会が行われました。新型コロナウイルスの感染拡大によってここ数年間分館行事が中止になり、地区の中でコミュニケーションが不足しがちになりましたが、多数の参加があり盛大に開催されました。

今回は、「カラオケ芸能大会」の他に、分館行事の一つである「分館ペタンク大会」が午前中に行われ、豪華な食事やお酒等が用意されており、開会の後、数年ぶりに開催された事も、会話を楽しめる方が多く、始めのうちにはカラオケや一発芸を披露される方がいまして、しかし、お酒も回り徐々にカラオケで自慢の歌声を披露される方が多くなりました。夕方から開催されたこの会も、いつしか日が暮れ外は暗くなりましたが、会場内はとも盛り上がり、一時はカラオケの準備が間に合わないほどでした。最後にスマップの世界に一つだけの花が歌われ会場全体で合唱になりました。その後、閉会になりました。

華な食事やお酒等が用意されており、開会の後、数年ぶりに開催された事も、会話を楽しめる方が多く、始めのうちにはカラオケや一発芸を披露される方がいまして、しかし、お酒も回り徐々にカラオケで自慢の歌声を披露される方が多くなりました。夕方から開催されたこの会も、いつしか日が暮れ外は暗くなりましたが、会場内はとも盛り上がり、一時はカラオケの準備が間に合わないほどでした。最後にスマップの世界に一つだけの花が歌われ会場全体で合唱になりました。その後、閉会になりました。



新しい年がスタートしました。昨年は、利用者の皆さまが新任司書を温かく迎えてくださり、また多くの方にご利用いただき、たいへんありがたうございました。ぜひ今年も、町立図書館を気軽に活用いただければ幸いです。



今年も好評！  
新春企画  
「ハッピーバッグ」

### ～高森町コミュニティスクール学校運営協議会から～ 高森の子どもは、学校・地域・家庭、町全体で育てよう！伸ばしていこう！

高森町コミュニティ・スクールの学校運営協議会では、高森の子どもを家庭はもちろん地域・学校が協働して、目指す子ども像を実現していこうと取り組んでいます。令和5年度は、各校のグランドデザインで大事にされている「自己肯定感」「自己有用感」を高めていこうと協議を重ねてきています。



「自己肯定感」や「自己有用感」とは何でしょうか。大変難しい言葉ですが、人が成長していく上ではとても大事な要素になります。

◆「自己肯定感」とは何でしょうか。  
それは、『良い面もマイナスの面も含めて、現在の「ありのままの自分」を認めること今の自分が好き』という感情で、「自尊心」ともいわれます。

高森町で目指す子ども像は「自己肯定感が高い子ども」で、次のような子どもです。

- 主体的に物事を考え、意思決定ができる子ども
- 自分のことが好きである子ども
- 人と自分を比較しない子ども
- 他人の意見を認められる子ども
- 失敗を恐れず積極的に行動する子ども
- 気持ちが安定している子ども
- 突然の困難にも動じない強さを持った子ども
- 最後までやり通そうとする子ども

自己肯定感の低い子どもはこの逆です。

◆「自己有用感」とは何でしょうか。  
『他の人の役に立った、他の人に喜んでもらえたなど、相手の存在なしには生まれてこない感情』といわれています。この自己有用感が、子どもたちに付けていきたい「自己肯定感」を育むのに必要なのです。この感情を持つことで、子どもの社会性を高め、「人とかがかわることが楽しい」、「人の役に立ちたい」などと思える人間に育っていくことにつながり、安定した自己肯定感が子どもの中に育っていくこととなります。

地域、家庭では、こんなことを心がけよう！

- 大人の子どもへのかかわり方ひとつで違うので、家庭でも幼少期から子どもに寄り添い、子どもの目線に立って適切な声かけ、スキンシップなど心がけていくことが大事。
- 幼年期の接し方を誤ると、子どもに愛着障がいが出てしまう。
- 愛着が形成されると、子どもの中に、人への信頼関係がしっかり芽生えるようになり、心理的な安心感を得られ、さらに、コミュニケーション能力を高めることができる。
- 地域においても、子どもたちを見守り、挨拶を交わしたり声をかけていただいたりすることで子どもたちの感情形成に大きな影響がある。

(公民館長 芦部公一)

さて、町立図書館では、毎年新春の恒例企画として「本の福袋」を実施しています。今年度は名称を「ハッピーバッグ」として、児童書から一般書まで、多様なテーマのバッグをご用意しました。一つのバッグには、テーマに沿って数冊の本が入っており、中身は「福袋」同様、開けてみてのお楽しみ今年も、多くの方にご利用いただきました。

1月を過ぎたので、どんな中身で用意していたのか、少しだけ「ネタバレ」をご紹介します。たとえば、「天才の頭の中」というテーマの一般書のバッグ。この中には、「大



谷翔平語録』『超進化論藤井聡太』『一流の頭脳』という3冊が入っていました。ジャンルの異なる二人の若き天才についての本に、脳科学についての本を足したセットです。また、「12」という数字がテーマの絵本のバッグ。この中には、『げんきなマドレーヌ』『もしものくに』『12にんのいちにち』という3冊が入っていました。すべて、登場人物に12という数字がまつわる絵本です。ほかにも、「いつもそばにいる」「怖いもの見たさ」今年の方針にちなんで「龍が出てくるおはなし」など、中身が気になるテーマを考え、職員も工夫を凝らしてバッグを作りました。普段はあまり読まないジャンルの本に出会っていたり、けたり、この本とこの本は一緒に選ばないというようなセットになっていたのでしょうか？

ぜひ来年も、楽しみにしていただけたら幸いです。